



NIPPON NO MADO

工場に併設されている開放的なショールーム。製品が並ぶほか、遮音性を体感できる装置なども。
予約時の申し込みで工場見学も可能。

Made in Aomori House

05

夏は涼しく、冬は暖かい。
環境にもいい木製窓という選択

株式会社 日本の窓

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史
text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

木製サッシを 日本の窓のスタンダードに

「日本の窓」は、日本で唯一生産ラインをもつ、木製窓の製造工場です。日本でつくられる窓は、大量生産に向いているアルミニウムのサッシが高度経済成長期に主流になり、木製サッシは市場の1%も満たしていません。しかし、木のサッシはアルミよりもはるかに優れており、欧米諸国では窓の20～40%が木製サッシです。日本は窓に関して、ガラパゴス状態になってしまっているのです。

「日本の窓」の親会社である東京の工務店「東京組」では、設立以来イタリアから木製サッシの窓を直輸入して住宅に使用してきました。そして2016年、「木製サッシを日本の窓のスタンダードにしたい」という思いから、創業者の故郷であり、スギの人工材面積が日本第4位の青森県に本工場を構えました。主力商品のモデル名は、「窓のBASIC＝基本」を略した「MADOBA（マドバ）」と名づけました。



写真提供／日本の窓

窓は家の顔」として、見た目にも美しい木製窓にこだわり続けてきた。



1. インテリアに合わせて木の色を選べる。
2. 日本の窓の木製サッシはペアガラスが基本。木の反りを矯正できる特殊な部品を、イタリアから取り寄せて使用している。

断熱性・遮音性に 優れた木製窓

木製サッシの最大の魅力は断熱性です。年輪が熱伝導の速度を変化させるため、熱が一定の速度で伝わるアルミよりも、約1,200倍も熱を通しにくいのです。同じ原理で、木製窓は遮音性にも優れています。

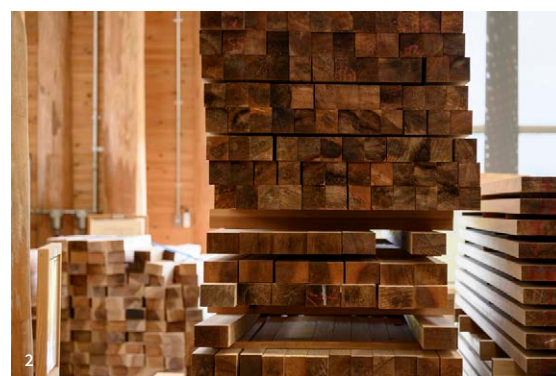
木製窓によって住宅の断熱性能が高まれば、室内の温度が保たれるため冷暖房費の節約になり、温度差により引き起こされるヒートショックのリスクも減らせます。また、窓の表面温度の変化も少なくなることから、結露もしにくくなります。さらに木は、ぬくもりを感じられる見た目や手触りが心地よく、月日が経つほどに風合いが出て経年変化ならぬ“経年良化”をします。メンテナンスは約10年に1度、傷みやすい箇所を削り塗装を塗り直す必要がありますが、自宅でもできる簡単な作業です。実際に木製窓を取り付けられたお客様たちからは、「すごくいい」と好評をいただいています。

木の地産地消が、 地球環境のためになる

窓のサッシを木製にすることは、地球温暖化対策にもつながります。とくに近年の住宅は、エネルギー消費を抑えられる高機密・高断熱が求められるようになってきており、これからは木製窓の時代といえるでしょう。また、木製サッシは製造時においても、丸太を製材し乾燥させるというシンプルな工程でつくるため、アルミの場合と比べてエネルギー消費を68倍も抑えられます。加えて「日本の窓」は、青森県産の木材を中心に100%国産材を使っているため、外国産材よりも輸送に伴う温室効果ガスの排出量を削減しています。

国産材のなかでも、「日本の窓」は樹齢50～60年の大径木を使用しています。幹が太い大径木は、かつては大黒柱などに使われていましたが、住宅のつくりが変った現在では使い道がなくなり、樹齢20～30年の小径木と同じように扱われてしまっています。その点「日本の窓」のサッシはすべて無垢の木からつくるため、大径木がびったりなのです。

現在、日本に植林されている木はほとんどが伐り時を迎えています。それらを伐り出して活用し、新たに植林をすれば森を正しく管理できます。すると土壌が豊かになり、川や海へもその栄養が行き渡ります。国産材を利用することは、自然環境のためにもなるのです。木は石油燃料などと違い、再生産できる持続可能な資源。ぜひ木製窓で、木との暮らしを体感してください。



1. サッシにする木を伐採する様子。国産材の使用は日本の林業を守ることにもつながる。2. 伐採した木は製材所で製材されてから工場に届く。

十和田市の牧場だった敷地に建つ工場。その建築は「ウッドデザイン賞」や「JIA 環境建築賞」などを受賞。

写真提供／日本の窓





1. 50m 四方の広い工場をひと回りすることで、すべての生産工程を経て木製サッシが完成する。2. 塗料はイタリア製。3. 工場内には木の香りが充満している。
4. 職員は地元で採用。5. イタリアから輸入した専用の機械で加工する。



DATA | 物件概要

施 設 名 : 株式会社 日本の窓／十和田工場
構造及び階数 : 木造平屋建て
建 築 面 積 : 2947.83㎡
延 床 面 積 : 2798.34㎡
完 成 年 月 日 : 2017年4月28日

建 築 主 : 株式会社 日本の窓
設 計 者 : 株式会社 東京組／アルクデザイン
施 工 者 : 紺野建設株式会社

【県産材の使用状況】

構 造 材 : スギ
内 装 材 : スギ
外 装 材 : スギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 日本の窓

青森県十和田市大字八斗沢字八斗沢68-10
Tel:0176-58-6070 Fax:0176-58-6080
contact@madoba.jp
<https://nipponnomado.jp/>



家族の成長とともに可変する、 “経年美化”の家

**1952HINOKIYA 一級建築士事務所
有限会社 赤穂工務店**

文=栗本 千尋 写真=1952HINOKIYA 一級建築士事務所 提供
text:Chihiro Kurimoto photo:1952HINOKIYA



1952HINOKIYA & AKOU KOUMUTEN



シンプルな白い外壁サイディングに、玄関部分の無垢材が映える家。玄関を囲う壁やドアは、ヒバでできているため、いい香りがする。



リビングから土間と予備室を見る。床に張られたヒバ材のフローリングは、部屋ごとに見切り材で分かれていないので段差がなく歩きやすい。

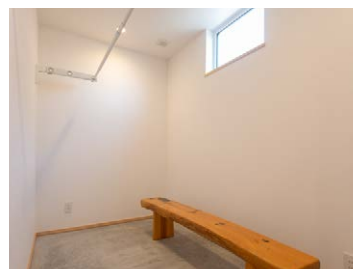


「木づかい賞」を受賞した住宅

材木屋を母体とし、県産材などの無垢材をふんだんに使った家を得意とする1952HINOKIYA一級建築士事務所。今回ご紹介するのは、2024年度第17回あおり産木材活用建築コンテストにて、「木づかい賞」を受賞した白銀の家です。(参照11P)

玄関を囲う壁には、殺菌・消臭効果があるヒバがふんだんに使用され、家に入る前からいい香りがします。上部のスリットから自然光を取り込む玄関扉を開けると、出迎えてくれたのは施主の齋藤さんご夫妻。左側にはキッチンと繋がる室内窓があり、家族のコミュニケーションを生んでいます。

床に張られたフローリングは部屋ごとに見切り材で分けられることなく、ずっとフラット。「子どもたちは帰ってきたら靴下を脱いで素足で過ごしています」と笑顔のお二人。床と壁の接する部分にある巾木も、高さのない無垢材を使用しているため、壁が広く感じられます。



写真右上は、玄関とキッチンを繋ぐ室内窓。写真左下の木製スリットは、床下エアコンの空調用。ダイニングや洗面室、ランドリールームにもこだわりが詰まっている。

床下エアコン1台で全館空調

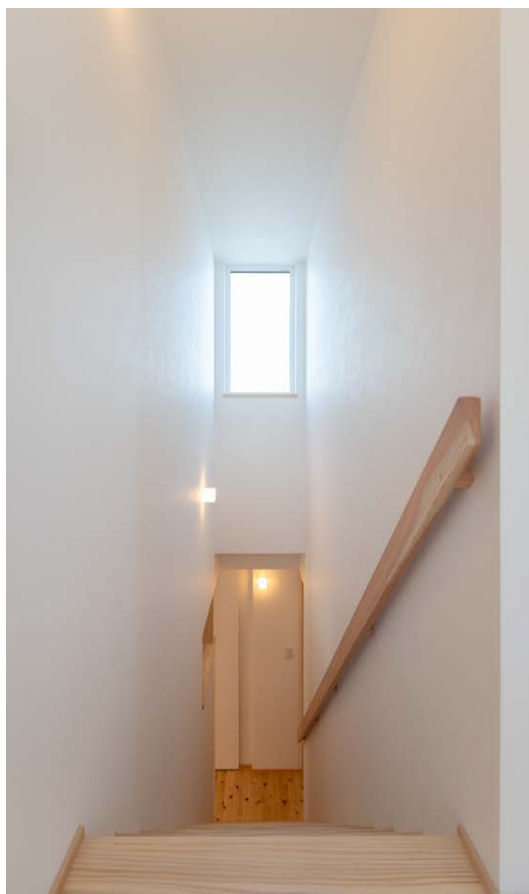
もともと、近所でアパート暮らしをしていたという齋藤さんご家族ですが、3人目のお子さんが生まれるときに手狭になり、家を建てることを決意。以前からSNSで1952HINOKIYA一級建築士事務所をチェックしており、住宅見学会へ行くことにしたそうです。

「他の住宅メーカーにはないデザイン力に惹かれました。見学会で見たお宅は、どの角度から見ても美しかったです」

ご夫妻が求めたのは、デザイン性だけでなく、断熱性能や機能面も。

「それまで住んでいたアパートは、断熱性能が悪かったんです。夏は暑くて、冬は寒い。エアコンはリビングにしかないから、他の部屋に行けない時期もありましたし、北側の部屋は、スリッパを履かないと冬は歩けませんでした」

そこで、この家では断熱ボードを2枚使いし、壁にはウレタン断熱もプラス。床下エアコン1台だけで、全館空調が叶っています。エアコンの風が直に当たることもなく、寝るときも快適だそう。



2階から階下を見る。階段の手すりに使用されている無垢材は手触りが◎。

家族の営みが刻まれる、 一点ものの家

間取りは奥さまのこだわりが詰まった回遊動線。リビングと繋がるランドリーには洗濯機とハンガーパイプがあり、洋服が乾いたらハンガーのままファミリークロークへ。その隣はサニタリーになっており、実験用シンクを備えた造作洗面台と、お風呂とトイレがまとめられています。洗面台は玄関から近いので、家へ帰ってきたらすぐに洗えるのも便利。

キッチンで料理しながらも見守れるよう、ダイニングには子どもたちの勉強スペースがあります。その両脇はたっぷりの収納があり、可動棚により荷物の大きさが変わったときにも対応できる仕様。

「今は子どもたちに占拠されていますが、いずれ巣立ったら私たちの書斎スペースにしたいんです。今はせっかく造った土間にもマットを敷いてキッズスペースにしていますが、庭と繋げて半屋外空間にしてもいい。その頃には木材の色合いも変わっているだろうし、似合う家具を買うのもいいですね。家族の成長とともに使い方を変えていけるので、老後が楽しみになるような家です」

無垢フローリングは傷つくのが怖い、という人もいるかもしれませんが、齋藤さんご夫妻はこう考えているそう。「最初は汚しなくなかったのですが、子どもたちが鉛筆で落書きしてしまっても消せばいいし、工業製品じゃないから、傷ついたらやすりがけすればいい。そう考えると、目くじら立てなくてもいいやって思えるようになりました」

“建てて終わり”ではなく、住み継ぎながら、ライフスタイルに合わせて可変できる家は、家族の営みが刻まれ、経年美化していく一点ものです。

土間と無垢材は相性が抜群。
木のぬくもりが感じられるフローリングなので、素足で過ごしたくなる。



土間からリビングを見る。その奥にはキッチンがあり、右手にダイニングが。ゆくゆくは土間を庭と繋げて半屋外空間にしたいという構想も。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：89.77㎡
延床面積：129.93㎡
完成年月日：2023年7月

設計者：1952HINOKIYA一級建築士事務所
施工者：有限会社 赤穂工務店

【県産材の使用状況】

構 造 材：土台に青森ヒバ、柱にスギ
内 装 材：1階床に青森ヒバ、2階床・階段にスギ
その他造作材に青森ヒバ、スギ
外 装 材：玄関外壁に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

1952HINOKIYA一級建築士事務所

青森県八戸市柏崎三丁目8-13
Tel:0178-43-3848 Fax:0178-41-1002
1952hinokiya@gmail.com
<https://1952hinokiya.net/>



有限会社 赤穂工務店

青森県八戸市石手洗油久保6-10
Tel:0178-96-5510 Fax:0178-96-4079
info@akoukoumuten.com
<https://akoukoumuten.com/>



材木屋が母体だからこそ叶う、 県産材を使い分けた家

1952HINOKIYA 一級建築士事務所
有限会社 家口建設

文=栗本 千尋 写真=1952HINOKIYA 一級建築士事務所 提供
text:Chihiro Kurimoto photo:1952HINOKIYA



1952HINOKIYA & KAGUCHI KENSETSU



自然光の入る、明るいダイニング空間。窓の上部は天井と同じ位置にあるため、開放的な印象に。

ハイドアや窓を 天井高に合わせ開放的に

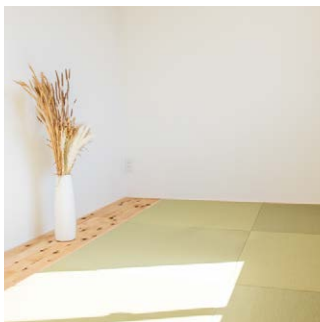
JR八戸線長苗代駅近く、線路沿いに立つ一軒家。複数の素材が組み合わせられた外壁に、青森ヒバでできた外装ルーバーや外柱、玄関扉が、やわらかな印象をもたらしています。玄関扉を開けると右手にたっぷり収納のシューズクロークがあり、室内へ入ると家族がくつろぐリビングが広がります。

基本の天井高は2,250mmと、一般的な基準の2,400mmと比べると低めながら、広々とした印象です。これは、勾配天井の高い部分が2,850mmあることや、天井高に合わせて設置されたハイドアや窓のおかげ。車通りの少ない庭側の大きな掃き出し窓からは自然光を取り込み、キッチンの目線の高さにあるスリット窓からは線路のホームを借景しつつ、プライバシーは確保しました。

リビングの真ん中に据えられているのは、機能性とデザイン性を兼ね備えた薪ストーブ。煙突を2階のフリースペースにも通すことで、物干し場として活用し、洗濯物を乾きやすく。通気口から床下へ暖かい空気を吸い込み、脱衣所に送り込むような仕組みになっていて、真冬でも家中を暖めてくれるそうです。



エアコンの室外機など、生活感のあるものは外装ルーバーが隠す。玄関ドアを開けて右手側には、たっぷり収納のシューズクロークが。



四代続く材木屋だからこその強み

設計を手掛けたのは、八戸市を拠点とする1952HINOKIYA 一級建築士事務所の栢澤卓馬代表。1952年創業の三代続く材木屋「檜屋木材店」が母体だからこそ、青森ヒバや青森スギ、南部アカマツといった地域材を扱っているのが同社の強みです。また、長年お付き合いのある職人さんがいるため、既製品の建具カタログから選ぶのではなく、その家のためにオーダーメイドした建具材や家具材を造りつけてくれるのも魅力のひとつ。

施主の島守さんは、この家を設計した栢澤さんと同級生というご縁があったため、住宅を建てることと決めたとき、真っ先に相談したそう。

「彼がこれまでに設計した住宅をいくつか見学させてもらったところ、無垢材がふんだんに使われていて、色合いの優しさや、やわらかな手触りが心地よかったんです」家づくりを始めた頃、島守さんの妻のおなかには第二子がいました。子どもたちと暮らす家なので、ぜひ無垢材を取り入れたかったといいます。

「もともと、どこの誰が作ったかわからないものを食べるより、できるだけ地産地消したいタイプ。だから、せっかくならできるだけ県産材を使いたいねと、妻とも話していました」



10.15 帖のリビングルームと繋がっているのは、客間にもできる3.83帖の和室。

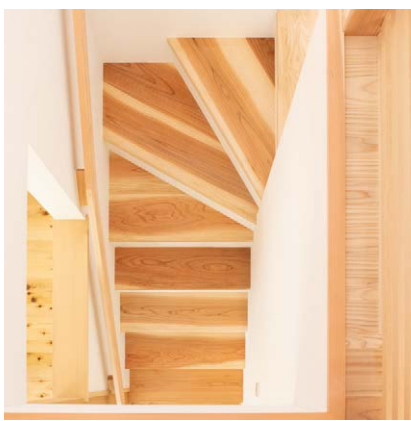


2階のフローリングは杉材を使用。作業台も造作したことで、統一感がある。

木材の特性によって 使い分け

椛澤さんは、それぞれの木材が持っている特性に合わせて、県産材をふんだんに使用しました。例えば、青森ヒバは緻密で水や虫にも強く、シロアリが好んで食べないため、土台や外壁、庭の枕木に。また、来客が多く、普段から家族が集まることの多い1階のフローリングや、オーダーメイドしたカウンターなどの造作にも活用しました。ヒバよりも安価な杉は、やわらかく傷がつきやすいものの、足触りがよく、クッション性にも優れているので、人の出入りが少ない階段や2階のフローリングに採用しています。実際に杉のフローリングを触てみると、1階のヒバよりもやわらかく、素足で過ごしたくなるような心地よさがあります。

「この家で長く暮らしていると慣れてしまってわからなくなるのですが、数日旅行してから帰ってきたとき、木のいい香りがしたんです」と島守さん。木々に抱かれたような、ぬくもりを感じられる暮らしがここにはあります。



DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：78.87㎡
延床面積：116.75㎡
完成年月日：2023年3月

設計者：1952HINOKIYA一級建築士事務所
施工者：有限会社 家口建設

[県産材の使用状況]

構 造 材：土台に青森ヒバ、柱にスギ
内 装 材：1階床に青森ヒバ、2階床・階段にスギ
その他造作材に青森ヒバ、スギ
外 装 材：外装の一部と玄関ドアに青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

1952HINOKIYA一級建築士事務所

青森県八戸市柏崎三丁目8-13
Tel:0178-43-3848 Fax:0178-41-1002
1952hinokiya@gmail.com
<https://1952hinokiya.net/>



有限会社 家口建設

青森県八戸市青葉3-6-17
Tel:0178-44-2363 Fax:0178-44-2377
office@kaguchi.co.jp
<http://www.kaguchi-kensetsu.com/>

